

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越の秋を彩るテノールとソプラノ 珠玉のうたごえ
団体名	Peaceやまぶき
市担当課名	文化振興課
事業の目的	市民に一流の音楽を身近に感じていただくこと。「世界的ソプラニスト登川直穂子（イタリア在住・川越出身）」と同じく「川越出身のテノール歌手東海林尚文」を迎え音楽コンサートを行う。
事業の実施内容	<p>☆平成24年9月15日（日）霞ヶ関公民館にてプレ企画（ミニコンサート）開催。170人無料招待。松江町聖公会教会にて8/30、9/29に合唱団レッスン。</p> <p>日時：平成24年11月16日（金）13：30開演</p> <p>会場：川越市民会館やまぶきホール</p> <p>対象者：市内在住・在勤・在学の方</p> <p>内容：川越出身の音楽家のコンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・東海林尚文（テノール・川越出身・富士見市在住）</li> <li>・・・登川直穂子（ソプラノ・川越出身・イタリア在住）</li> </ul> <p>入場料：前売1,300円（当日200円増）。障害者1,000円</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体の役割</p> <p>出演者との交渉・スケジュール調整。ポスター貼り出し、チラシ配布等の宣伝とチケット販売及びプレ企画・本番の運営。</p>
	<p>川越市の役割</p> <p>学校・公共施設等へのポスター掲示依頼とお力添え。</p> <p>運営に関するアドバイス。</p>
事業の成果	<p>質の高い分化石業を低料金で市民に気軽に接していただき、改めて「平和であること」や「文化」への関心を持っていただけたと思います。アンケートの結果をみても、参加した一人一人に喜んでいただいたコンサートでした。とかくレベルが高いと敬遠されがちだったクラシック（オペラ歌曲）が多くの市民の共感を呼んだということは、近い将来川越駅西口に建設が予定されている大ホール運営にはずみが見ついたと思っています。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>・川越に”平和の理念と文化を育む”という考え方で、年間をとおして継続性のある事業を考えていきたいと思っています。今回も川越で様々な活動をしている方にプレ企画に協力していただきました。特に“かすみ野”地域で行ったプレ企画にはたくさんの方の地域の方に参加していただきました。このことは、多くの方が呼びかければ応えてくれる潜在的関心を持っていると思いました。市へのお願いとしては、自治会への協力要請、各所に宣伝依頼に行く時の同行、近くの市町村の情報提供などを望みます。“Peaceやまぶき”としては目的に賛同してくれる後継者を育てていくとともに、繋がりをさらにひろげる努力をしていきます。また、市との意思の疎通を計りつつ進めていくことが大切と思っています。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>“Peaceやまぶき”では文化事業を定着させるには10年間という長いスパンで継続していく必要があると考えています。質の高い分化石業を低料金で提供するには“Peaceやまぶき”単体では困難なので、市との協働事業として位置付け、単体でもやっつけられる力を付けていく期間として協働事業への参加をせめて5回とし、補助金を付けてほしいと思います。</p> <p>今までも出演者との交渉は市民の実行委員会がギャラや内容など出演者に協力していただいていた運営してきております。この様な形での文化事業への市の援助がいただければ続けていけるのではないかと、何とか続けていきたいと願っています。</p>

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越シニアカレッジ「ふるさと塾」
団体名	川越シニア大学『小江戸塾』
市担当課名	文化スポーツ部文化振興課
事業の目的	この講座は生涯学習ボランティアとして公民館や学校での体験学習・支援活動に関わり子どもたちに知識・技術・知恵を伝承する人材育成のため、川越の「歴史・文化」等を学習しあわせて仲間づくりを行うものです。
事業の実施内容	この講座は川越に関する著名な先生方を講師に迎え基礎学習を行い続いて受講生主体のグループ活動を実践するものです。 ① 期間・回数：7月11日～12月19日 11回 ② 時間：午前9時30分～午後3時30分 ③ 会場：市民会館 他 ④ 受講料 3,000円 ⑤ 対象：川越市在住55才以上の男女 ⑥ 11回中9回以上出席者に修了証書授与（資料1・資料2参照）
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ① 講座全体の企画・準備・運営 ② 受講者に対する支援・指導 ③ 全体の安全管理
	川越市の役割 ① この事業に対する財政支援 ② 講座全体の企画・準備・運営に対する助言 ③ 会場・講師陣確保に関する支援並びに受講者募集に関する支援（広報・応募受付）
事業の成果	① 市の後援・協働事業であり多数（36名）の受講者を得られた ② 以前に比べ質の高い受講生が多く全体として活気ある講座が展開出来た。中途退塾舎も少なく33名修了できた ③ 成果発表の出来栄も非常によく公民館・学校支援に活用出来るものが多かった。 ④ 全ての先生方の講義・現地見学共に受講者の評判が良く、再度受講したいという意見が多かった（アンケート結果 資料4参照） ⑤ 33名の修了者中24名の方々が小江戸塾に入会して頂いた、ニューパワーを得て今後の小江戸塾の活動が楽しみである。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	平成24年度協働事業として実施 大きな成果を挙げることが出来た。今後も継続して協働事業として実施する方針であります。特に課題はありません。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	この事業は従来、文化振興課主催の事業でした。24年度から協働事業として小江戸塾が主催することになった補助金前提の事業であります。補助金の継続を節にお願い申し上げます。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	かわごえ国際交流フェスタ2012
団体名	かわごえ国際ボランティアの会
市担当課名	市民スポーツ部 文化振興課
事業の目的	地域外国籍市民と川越市民の相互理解と異文化交流及び国際ボランティアの啓発
事業の実施内容	<p>○『かわごえ国際交流フェスタ2012』の開催          実施日時：平成24年11月11日（日）午前10時から午後4時          実施場所：川越市蓮馨寺境内          実施内容：会場内のテントにて、パネル展示、パンフレット、料理、民芸品などを通じて各団体がかかわる国の文化や団体の活動内容を紹介した。          併せて会場内の広場にて民族芸能を披露し異文化交流を行った。          参加人数：約2,500人</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施全般における運営、参加団体との連絡調整等</li> </ul>
	川越市の役割
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機材（テント、机、椅子）の貸出、広報。市広報への掲載。</li> </ul>
事業の成果	<p>会場の立地条件が良く、6回目の開催ということで市民の認知度が高まったためか昨年以上の来場者があった。          各ブースでの交流もあり、パフォーマンスも多くの人に楽しんでもらうことができたものと認識しています。この事業を実施したことにより市民の異文化理解、国際ボランティアへの関心を高めることができたと考えております。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>この事業は継続することが重要と思われるので今後もテントなどの機材の確保が課題となっております。また、参加人数は増加しておりますは、より多くの市民の方に参加いただきたいので、効果的な事業の周知方法について検討していきたい。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>継続して事業を実施したいと考えていますが、規模の縮小せざるを得ないと思います。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	河越氏の活躍とその時代を研修し文化財愛護を広める事業
団体名	河越館の会
市担当課名	教育総務部 文化財保護課
事業の目的	川越市民に、河越氏の活躍した時代を中心にした歴史、考古学などの最新情報を提供します。この事により、一般市民が歴史に対してより興味を抱き、史跡や文化財愛護への理解を深めることを目的にしています。
事業の実施内容	<p>二部構成とする。どちらも河越氏の活躍した中世に焦点を当てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史講演会 演題「中世前期武士の屋敷と河越館」 講師：東京都豊島区教育委員会・考古学者 橋口定志 氏</li> <li>2. シンポジウム テーマ「中世の河越を考える、東国史の中の河越」 パネリスト 木村茂光 氏（帝京大学教授） 落合義明 氏（東海大学・慶応大学非常勤講師） 平野寛之 氏（川越市教育委員会） 池谷初恵 氏（伊豆の国市文化振興課） 司会 酒井紀美 氏（茨城大学教授）</li> </ol>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 日本の中世の歴史を学び市民が先人達を尊び、川越市の史跡・文化財を知り、理解して、大切に作る助けをする。対市外には、活動を通して川越市の豊富な史跡・文化財を紹介し、川越市ファン増強に努める。
	川越市の役割 企画・活動を広報川越での案内。市の後援。シンポジウム・講演会への参加。
事業の成果	<p>事業は二部構成で実施致しました。何れも好評にて終了する事が出来ました。支援を頂きました川越市、この事業にご協力頂きました講師・パネリストの先生方の賜物です。ここに感謝致します。</p> <p>一部の歴史講演は考古学者から、市民にはあまり知ることが出来ない中世の武士屋敷などの興味ある解説が有りました。川越市立博物館で70人が受講。</p> <p>二部のシンポジウムは、ただ河越の事だけでなく、他の地域との比較検討も肝要と考え、中世の河越を相対化して明らかにすることを狙いとしました。斯界の第一人者から、中世の河越とはどういうところか、文献史学や発掘、考古学の立場から河越氏や河越館についての研究成果の報告を頂きました。河越氏の力の大きさを感じました。又、河越氏と同時代の源頼朝が配流されていた、伊豆国の北条氏の館やその周辺の貴重な最新研究成果を学べました。司会者の上手な裁量で客席の学識者との意見交流も盛んに出来ました。やまぶき会館で220人が受講し、豊富な配布資料は価値が高く事業後も要求がありました。受講者からはもっと聞きたかったとの声がありました。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集客方法と集客数の事前確認方法 (市広報での周知にスペースの拡大。PRビラの効果的対策考慮)</li> <li>2. 川越市外にも広報した方がより効果を期待できるし、そのPR方法 (県広報誌への掲示。新聞社の協力)</li> <li>3. 講師陣へは薄謝でご対応をお願いした。(会費と予算の関係) 講師陣、資料、開催場所の協力は問題有りませんでした。</li> </ol>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	会費での運営の為、会員のみ的小事業に終わる可能性が有ります。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	バランスの良い食生活のための健康レシピカード作成
団体名	PFCの会
市担当課名	保健医療部 健康づくり支援課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の健康維持・増進のためバランスの良い食生活の提案</li> <li>・産直食材を利用し安全安心な食生活の提案</li> </ul>
事業の実施内容	<p>バランスの良い食生活のための健康レシピカード作成                      ○事業の実施期間 平成24年7月から平成25年2月まで（計22回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の方へイベント等開催時配布</li> <li>・料理教室・栄養相談等、会の事業開催時実習・説明し提案</li> <li>・各公民館・市役所等カードを常時設置の提案</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進のため、バランスの良い食生活が営めるよう、レシピカードを作成し広める。</li> </ul>
	<p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷機利用等</li> <li>・試作時の調理室利用</li> <li>・カード配布について連絡調整</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当会にて、以前より市民の方々に役に立つように、バランスを考えたレシピカードを作成したいと考えていましたが、主に費用の問題でいきまっていきました。このような補助金があることをご紹介いただき会員も協力し作成することができました。</li> <li>・バランス献立として5種類の組み合わせにて作成、裏面には川越市の食育基本方針を掲載し市民への周知も兼ねることができました。</li> <li>・この作成したレシピを各会員が、講座、事業を開催するときに参考になるように手元に置き大いに活用することができました。</li> <li>・協働事業として実施したことにより、川越市健康まつり、ハッピーフェスティバル、高齢者教室等、市の事業が開催される機会に、参加者へ配付・説明と行うことができた、市民の健康維持に寄与できたのではないかと考えている。</li> </ul>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旬の食材を使用するため時期の選定等の工夫</li> <li>・写真撮影の研究（器の選定・盛り方の工夫・光のとり方等）</li> </ul>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は主食・主菜・副菜・汁物という分け方をして組み合わせ作成したが、和洋中等に分けたり朝食、昼食、夕食など分類して作成を考えていきたい。</li> <li>・手作りをしてもらうために簡単レシピなども考えていきたい。</li> </ul>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	老後の安心・成年後見制度の広報事業
団体名	NPO法人成年後見川越サポートセンター
市担当課名	福祉部 高齢者いきがい課
事業の目的	この「老後の安心・成年後見制度の広報事業」は、川越市において、広く市民の方に、介護保険制度と同様に老後の生活を支える成年後見制度の重要性を知って頂くために、講座や相談会等を通して、身近に分り易く広報する事業。
事業の実施内容	<p>○成年後見講座の開催（2回）            9月19日（水）午後 クラッセ川越、受講者18名            2月20日（水）午後 クラッセ川越、受講者25名</p> <p>○成年後見・介護保険・障害年金の相談会の開催（4回）            7月11日（水）午後、11月28日（水）午後、            1月14日（祝）午後、3月13日（水）午後。（川越西文化会館）</p> <p>○川越産業博覧会に出展。            10月27日・28日（土・日）終日。（相談会と広報活動を実施）</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割  事業の周知、高齢者サポート及び障害者サポートのネットワーク構築
	川越市の役割  広報への掲載、市の関係課への連絡調整等
事業の成果	<p>川越市の広報誌に高齢者いきがい課のコーナーで、講座と相談会の開催を掲載して頂き、集客につながり感謝している。</p> <p>今年から年2回の講座については、9月は「認知症の人への接し方」、2月は「上手な介護保険の使い方」と外部講師を招き、基調講演の後に成年後見制度の概要、事例紹介、相談会という形式にした。</p> <p>活発な質問が続き、満足度も高かった。相談会も毎回申込みがあり、10月の川越産博では両日で10組の相談があった。</p> <p>ホームページを開設した効果で、インターネット経由で成年後見や障害年金の相談があったので、今後も講座や相談会等の活動を広く発信してゆきたい。産博では、川越市との協働事業ということで、昨年に続き良い場所にブースを設営でき、団体名が入った揃いのジャンパーで広報活動できた。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	成年後見制度の利用者は大半が高齢者であり、高齢者の周辺を中心に広報してゆくことになる。民生委員等の高齢者の世話をされている方には、必要性を理解して頂けるのだが、なかなか一般の方には認知度が低く、講座でも集客に苦心している。講座や展博等を通じて、地道ではあるが、広報活動を続けてゆきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	年に2～3回の成年後見講座の開催。年に6回の成年後見・介護保険・障害年金の相談会の開催。市民が多く集まる場所での広報活動の実施等。を継続してゆきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	南古谷ウインド・オーケストラ 第2回定期演奏会
団体名	南古谷ウインド・オーケストラ
市担当課名	市民スポーツ部 文化振興課
事業の目的	南古谷地区の中学生を演奏者とした「南古谷ウインド・オーケストラ演奏会」を実施する。演奏会までの練習の中において、大学生等による楽器の指導等を通じて、大人と子どもが協力し合い、地域における新しい音楽文化の育みと振興、心豊かな人間形成を築いていくことを目的とする。
事業の実施内容	○平成24年1月から月に2～4回の練習を開始。 ※補助採択後の練習日【7日(土)、14日(土)、15日(日)】  ○南古谷ウインド・オーケストラ演奏会 実施日時：平成24年7月16日(月)午後2時から4時30分まで 実施場所：東邦音楽大学川越キャンパス(グランツザール)※入場無料 入場者数：約600人
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・地域内における人的・知的資源を活用した音楽文化の育成と振興。 ・演奏会を通じて、地域の子も同士や幅広い年齢層の大人との交流を図る。 ・地域の子もから大人までの幅広い層に音楽の楽しさを周知する。
	川越市の役割 ・広報協力 ・事業周知等に関するアドバイス ・地域コミュニティに関するアドバイス
事業の成果	東邦音楽大学(川越キャンパス)グランツザールで、南古谷地区の中学生等による単独の演奏会を実施したことで、良質な音響会場で幅広い年齢層の方に音楽の楽しさや懐の深さが伝わり、音楽文化の向上に寄与できたのではないかと考えています。特に聴衆は市内各地から、特に60歳以上の方が多く来られたことで多人数の吹奏楽の楽しさを感じられたように思いました。 また、演奏会に向けて、何か月前から月に2回～5回程度の練習会を実施しております。この練習会を通じて楽器を教える大学生と教わる中学生との交流等も行われており、中学生にとっては楽器の演奏技術の向上だけでなく異なる立場の人と触れ合え、豊かな人間形成につながったのではないかと思います。 この演奏会の実施にあたりまして、地域住民の協力はもとより、中学生演奏者の保護者にも携わってもらい、この事業を通じて地域コミュニティ活動の更なる活性化にも寄与したものと考えています。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	東邦音楽大学と南古谷地区が連携し、互いに無償の行為とし、地域の中学生主体の楽団として発足したもので、現在、会費等は一切なく運営している。招待演奏などは、楽器や楽団員の送迎は地域のボランティアで行っている。しかしながら単独の演奏会は自己資金の確保が難しく、保護者や地域との話し合いが必要である。楽団の充実の面から単独の演奏会(定期演奏会)は是非とも必要であり、また、今後は全市内の中学生にも参加の道筋を作ることが必要と考えている。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	協働事業の補助金が終了しても、継続していきたいと考えます。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	保育園年長児への環境教育「森のムッレ教室」
団体名	こどもの根っこを育てる会
市担当課名	福祉部 保育課
事業の目的	自然に触れ、自然を身近に感じるといった野外における自然体験は、自然（環境）保全行動を起こす動機を形成するだけでなく、知的好奇心や集中力、創造力などをも形成します。生涯にわたる人格形成の重要な時期である幼児期の5,6歳児（年長児）に対して、自然体験型環境教育を行うことで、自然を身近に感じるようになることおよび保全行動する環境人の育成を目的としています。
事業の実施内容	<p>○森のムッレ教室の開催</p> <p>4つの保育園（川越市立中央保育園、仙波町保育園、新宿町保育園、南古谷第二保育園）の年長児対象に、仙波河岸史跡公園で、各園3回ずつ計12回森のムッレ教室を開催。</p> <p>●1回目の教室テーマ「土に戻るゴミ、戻らないゴミ」 公園のゴミを拾ってきてもらい、そのゴミが土に戻るゴミか否かを問いかける。自然遊びのマナーを身につけると共に、虫探しを楽しみながら、土に戻るための虫の役割や物質循環について学ぶ</p> <p>●2回目の教室テーマ「生態系ピラミッド」 虫探し・葉っぱ拾いをしながら生態系ピラミッドを作る。植物・生物どれ一つかけても、生態系は崩れてしまうことを遊びを通して学び、人間も含め自然は共生しながら成り立っていることを学ぶ</p> <p>●3回目の教室テーマ「葉っぱ観察、木の顔探し」 ルーペで冬芽や葉の観察をし、観察の楽しさを体感。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <p>幼児むけ環境教育の準備および開催</p> <p>川越市の役割 仙波河岸史跡公園に散歩で来ることができる保育園（4園）への呼びかけ。（7月の園長会議にて呼びかけ）自然観察がしやすい公園づくり、幼児むけ環境教育の普及</p>
事業の成果	<p>・園児ら全員が、自然の中で遊ぶときの3つのお約束を覚え、意識するようになった。</p> <p>1. 大きな声を出さない （自然の中は動物や鳥もいて、脅かさないよう配慮の行為）</p> <p>2. 草は花は根っこから抜かない （植物も生きているから命を大切にす気持ち）</p> <p>3. 土に戻らないゴミは捨てない （ポイ捨て禁止マナー、動物が間違っって食べて死んだらかわいそうという思いやりの気持ち）</p> <p>・保護者の方の中には、森のムッレ教室への理解と好評価をいただきました。</p> <p>・年長児担任の保育士も、日ごろから自然への関心が高まっているようです。</p> <p>・森のムッレ教室開催園以外の保育園でも、森のムッレ教室の活動を理解し、できれば開催してほしいという声を聞きました。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	現在の協働事業の選考スケジュールは、4月～7月。本来自然観察（特に子供たちが大好きな虫探し・虫遊び）には最適な季節であるが、その季節を活用できません。現在の選考スケジュールを考えると、本活動のような自然体験は、虫が少なくなっていく秋・冬にしか開催できず、自然の教材が少なくなるうえに、子供が風邪で体調をわるくしやすい季節にもなり、開催延期等考慮することが必要になっております。出来れば、前年度中に選考し、補助金活動期間を新年度4月から開始できるようにしていただきたいです。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	森のムッレ教室（環境教育）の活動は今後も続けたいと思っており、取り組む保育園が増え、私立の幼稚園へも広げることをビジョンとして本団体は努力しております。事業委託になるよう、保育課へは提案しているところですが、補助金が終了し、さらには委託も受けられない状況では、まだ自立して活動するだけの見通しがたっておりません。本活動に賛同し、賛助会員として寄付を行う企業等を探す予定です。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。



平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	親子で楽しむ和太鼓・伝統芸能体験教室
団体名	NPO法人和太鼓文化を伝える会
市担当課名	福祉部 子育て支援課
事業の目的	親子で日本の伝統文化に触れることで、共通体験によるふれあいの時間をつくる。和太鼓や和楽器を通じた表現活動により、心と身体をのびやかにする。保護者の育児ストレスの軽減、地域でのネットワーク形成の一助を図る。
事業の実施内容	乳児向けの和太鼓体験教室を10・11・12・2月の平日午前中計4回開催（予定より1回増）。幼児向けの和太鼓体験教室を10・11・2月の日曜午前中計3回開催。会場は北部地域ふれあいセンターと東部地域ふれあいセンター。7回で計144組288人の親子が参加。申込総数は310組以上（初回受付時に、申し込みが殺到して途中から申込を自動的にお断りする対応をしたため、正式な応募数は把握できず。）各回和太鼓体験と講師の実演、自由体験の時間を設ける。実施後のアンケートはほぼ100%の回収率で、ほぼ100%から「よかった」と感想をいただく。
事業実施時における市との役割分担	団体の役割 開催の告知・会場確保・申込受付・事業の運営
	川越市の役割 広報・宣伝・当日の運営補助
事業の成果	確実にニーズがあり、参加者からの評価も高く、事業を開催することの意義は多々あった。ただし、運営面では、予算に計上できない部分の自己負担が多い（電話・FAXなどの通信費、および連絡にかかる時間、労力・道具の消耗度の高さ＝バチ・太鼓の破損、スタッフの交通費、道具運搬費、労力に対する事務局人件費）。 総合的に鑑みると、協働事業として（低料金で広範な市民に）プログラムを提供し続けることは困難だと判断する。 参加者の意識も高く、方向性も見いだせたので、今後は団体の独自事業として継続開催を目指していく。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	参加費が上がっても相応の価値がある、と理解していただくことが大切。 （最初の予算設定の段階で、子育て支援事業では参加者はお金を出せない、という市側の意向で料金設定を下げた経緯があるため。）
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	団体独自の自主事業として開催

平成24年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	子ども大学かわごえ学園祭 “こどもがつくるまち第4回「ミニかわごえ2012」”
団体名	NPO法人子ども大学かわごえ
市担当課名	教育総務部 地域教育支援課
事業の目的	子ども大学かわごえ学園祭「ミニかわごえ」こどものまち実施
事業の実施内容	「ミニかわごえ」は子ども大学かわごえの学園祭であるが、その枠を超えて川越や近隣の子どもたちとの共同プロジェクトである。その“こどものまち”のまちづくりのため川越市役所の支援のもとで川越市内の学校、会社、商店、市民団体、ボランティア団体の大人が積極的に協力する地域全体を巻き込む協働プロジェクトとなった。「ミニかわごえ」のまちでは、子どもたちが働き、給料をもらい、自由に使うという職業と市民体験をする。「ミニかわごえ」のまちの中は、地域通貨“コエド”が流通し、子どもたちは税金を支払う体験もする。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 「ミニかわごえ2012」は子ども大学かわごえの学園祭であるので、同校執行部が中心となって市内ボランティアを糾合して実行委員会を結成、同委員会の中の大人会議と子ども会議が協力して準備と会場の運営にあたった。 川越市の役割 ①財政支援 ②広報活動における支援 ③資材/機材提供等の支援
事業の成果	①当初の計画では、遊びのまち「ミニかわごえ」の子ども訪問者の人数を2日間で1200人と設定した。（予算案では雨天により1日しか開催されない場合等を想定して、2日で1000人とした）。そして往復はがきによる事前申し込み方法をとったところ、1500人を超える応募者が殺到したため抽選で約300人に受入れ不可の通知をした。ともかく目標を完全にクリアした。 ②昨年は店舗の出店は72軒だったが、今回は85店に増えた。昨年のテントの数も21張りだったが、今年は29張りに増加。 ③以上の量的増加による成果の他に大切なのは、質的満足度である。今回はまだアンケートの集計は出来ていないが、子どもビジターと実行委員（ジュニアスタッフ）、大人実行委員と来訪者らに対する聞き取り調査では、全員が大変満足の様子であった。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	実行委員会スタッフ（とくに大人）の人数の補強
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	子ども大学かわごえの学園祭として今後も継続して実施するには、マンパワーの負担が大きく、子ども大学かわごえ本来の教育に大きなしわ寄せが来ている。このため補助金が終わった段階で、市民団体へ移管して「川越市のこどもまつり」として実施してほしい。我々の経験では、補助金がなくても資金的には入場料や広告料でまかなえると考えるし、我々が持っているノウハウは全部提供する。